

先月は入社式などに招かれることも多かったが、フレッシュマンの生気に触れ、「ああ、日本の未来は大丈夫だなあ」と心強く感じられた。

とはいえ、社会は学校ほど単純なところではない。特に昨今は、雇用の流動化、中途採用の増加、専門の複雑化などで一律の社員教育もできにくくなっている。

私が就職した時代は、女性が長く勤めることは期待されておらず、私自身最初に入社した会社は不振で、次は途中入社となったため、集団の社員教育は体験できなかった。それでも、楽しく懐かしい思い出はある。

生まれて初めて名刺を刷ってもらった時、先輩記者が声をか

学び続ける楽しさ

参院議員 山谷えり子



されない謙虚さは、組織の中でもまれていくうちに卑屈さや依存につながって汚れていく危険もある。

幸いなことに日本は「道」の文化の国である。日々是好日と一日一日をフレッシュな気持ちで歩む気風の先人たちから学ばせていただける環境があちこちにある。

このところ、3人の先生の長寿のお祝いが続いていた。一人は宗教哲学の師で「問知

〈やまたに・えりこ〉サンケイリビング新聞編集長、国務大臣(国家公安委員長・拉致問題担当相)など歴任。1男2女の母。

う!」とにっこり笑っていきますよ」と皆を大爆笑させた。

学び続け、またそれを社会に還元させることは優れて人間らしいことである。こうしたことはすべてのベースには学ぶことは楽しい、良いことだという心の基底があると考えるが、複数の教育関係者からその基盤が今危うくなっているとも言われた。初等・中等教育における読解力の低下ならびに「学べばより良い人生が過ごせる」という、学

けてくれた。「オッ、名刺ができたか。一枚目は誰に渡すの?」。意味がわからずボカンとしていると、その方はニコニコと「僕はね、大臣に渡したんだよ。お会いしたこともない大臣の部屋にトコトコ入って

「新米記者の一枚目の名刺を受け取ってください。いい仕事をしたいと思います」と言っただけ。媚を売るといふケチな発想でなく意欲を表すものとして。君も誰に渡すか考えてごらん」と、歯切れよく言われた。

ああ、仕事というのは頭をやわらかくし、心意気でするものだと思いがさめる思いだった。分をわきまえ謙虚であることは大切だが、心意気や努力に裏打ち

■ 解答乱麻 ■

処」と書かれた米寿記念の扇子をいただいた。「知らぬ事を問うのは当然ですが、既に知っていると思っている事を問っていることが大切。私はこれから先も知っている事をこそ問いつけていきます」と言われ、その生新な格好良さに感じ入った。

もう一人は卒寿の書道の師で「あつという間に90歳は来てしましますよ。しっかりしないとね。皆さん「美」を探し続けましょうね」と鈴のような美しい声でおっしゃられた。

そして、92歳のお料理の師は「自然の筋道の通った料理を作りなさい。私はまだまだ長生きして皆さんを叱り続けます。そしていよいよの時は「ありがと

習の前提となる考え方を持たない子供たちが増えているというのである。

一日何時間もスマホを手に、瞬時に変化し流れる画面を見続けていては「道を求める心」などと言っても確かにピンとこないのかもしれない。

さて、この原稿を書いている私の横で小学2年生になった孫が、新しい教科書をつれしろうに開いている。フレッシュな2年生の心の中で、本への愛着が育ち、100歳超えても心がみずみずしくあるように、「こくご」の教科書を新緑の季節の中、孫とともに読了する挑戦をささやかながらもしてみることがバァバとして決意した。